



白桜小だより

平成 29 年度 6 月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成 29 年 6 月 1 日発行

だんだんとできるようになる

—習得の過程を大事に—

校長 宇賀神 佳子



かけっこ教室

今年も天候に恵まれた中、第9回運動会を挙行することができました。開催にあたり、PTA 役員の皆様をはじめ、保護者・地域の皆様には様々な場面でご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

今回の運動会は、「仲間を信じて、勝利をめざせ」のスローガンの下、3週間余りの練習期間で取り組みました。5月9日10日にはかけっこ教室を開催し、草野誓也先生、川崎和也先生のご指導を受けて全学年の子供が走り方を学びました。特にスタートの踏み出し方やカーブの曲り方については、姿勢の作り方や視線の向け方など、専門的な見地からの内容に、参観していた私もなるほどと、走る楽しさを感じていました。

暑い日ではありましたが、子供たちはしっかりと話を聞き、取組んでいました。その日、話を聞いて理解し、その通りにできた子供は6割程度だったのでしょうか。しかしその後練習するうちに、徐々に安定した見事な走りに変化してきました。応援団やリレーの練習が早朝から始まり全体練習も重なるうちに、運動会の機運も盛り上がり、子供たちにも「やるぞ!」と気持ちが入ってきたのでしょう。当日のような走りに変化してきたのです。

また、今年は集団での整列や動きも成長が見られました。「今はどうする時間なのか」を子供一人一人が自覚すること（自律）が、白桜小417名の動きでの集団の美（参画）に繋がることを、子供たちは体感できたと考えます。応援合戦、大玉送り、準備運動など、練習を重ねるごと、多くの先生方に励まされるたびに、まとまりが生み出されてきました。「できるようになったね」、「みんながそろってきました」など、先生方がきめ細かく成長の様子を子供たちに伝えることで、子供たちの一生懸命取り組む気持ちが満たされていくようでもありました。このみんながまとまることで、更なる大きな力を生み出すことを、今後は別の場面で、子供たちには実感させたいと考えます。

こうした子供たちの変容は、子供たちが指導内容を意識する中で生み出されてきたものです。もちろん基礎的・基本的な事項は、教員等の指導者が指導をしていきますが、それを「自分の力に変えていく」のは、子供を取り巻く環境だったり、周囲の信頼できる人々からの励ましだったり、どれだけ子供の心に響いたかによります。子供たちに内在する力を、どのように引き出していくかという、その指導過程にこそ、子供たちとのかかわりの楽しさがあると考えます。子供ができたか、できないかの結論だけを急ぐのではなく、子供自身の中で、教えられた内容が熟成していく過程に、適切な環境をつくったり、言葉かけをしたりして見守りたいとも考えます。

今後とも、ご理解ご協力をお願い申し上げます。